

# 第 78 回 KTSM 実技セミナー in 熊本

## KTBC の理解&基礎コース 開催報告

開催日時：平成 31 年 3 月 2 日（土）9：30～16：30

開催場所：医療法人桜十字 桜十字病院 リハビリテーション室

主催：桜十字病院

共催：NPO 法人 口から食べる幸せを守る会®

後援：株式会社クリニコ・株式会社大塚製薬工場

開催目的：「口から食べる」支援のために必要な包括的スキルとしての、KTBC ツールの理解、ベッドサイドスクリーニング評価、安全で効率的な食事介助、認知機能が低下している場合の食事介助などの支援技術について、知識・技術の習得を目指し、演習を主体とした相互実習によるスキルアップを図る。



### 【講師・アドバイザー】（敬称略）

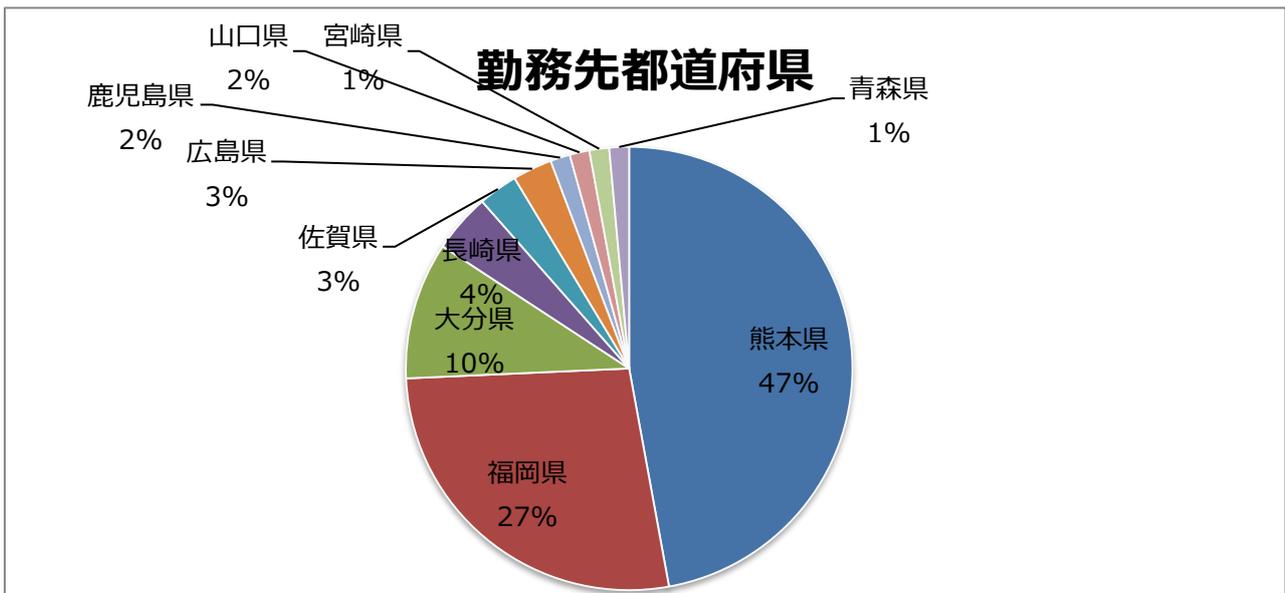
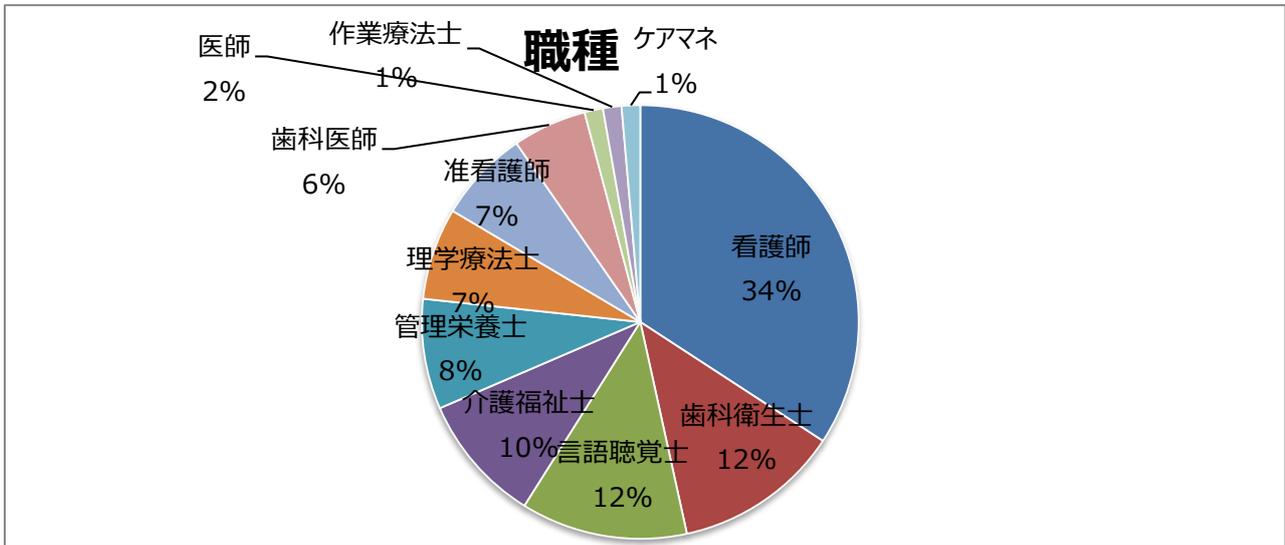
氏名	所属	職種（摂食嚥下に関する資格）
小山 珠美	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 JA 神奈川県厚生連伊勢原協同病院	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 理事長 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
竹市 美加	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 訪問看護ステーションたべる管理者	NPO 法人口から食べる幸せを守る会 副理事長 摂食・嚥下障害認定看護師 看護師 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
建山 幸	桜十字病院	看護師 KTSM 実技認定者
井野 美穂子	桜十字病院	看護師 KTSM 実技認定者
山下 裕史	熊本リハビリテーション病院	言語聴覚士 日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士 KTSM 実技認定者
平野 宏一	熊本リハビリテーション病院	看護師 KTSM 実技認定者
榎本 淳子	玉名市社会福祉協議会	看護師、社会福祉士 KTSM 実技認定者
田平 佳苗	国立病院機構 熊本医療センター	摂食・嚥下障害認定看護師 KTSM 実技認定者

<セミナーの様子>

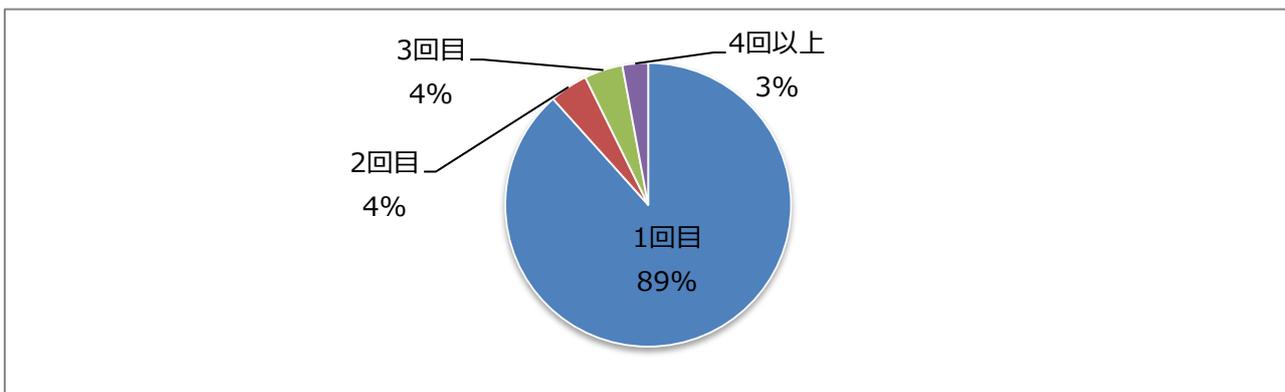


アンケート集計結果（回答数：70名，回収率：97%）

Q1.参加者の職種と勤務先の都道府県



Q2.KTSM 実技セミナーへの参加回数と参加理由

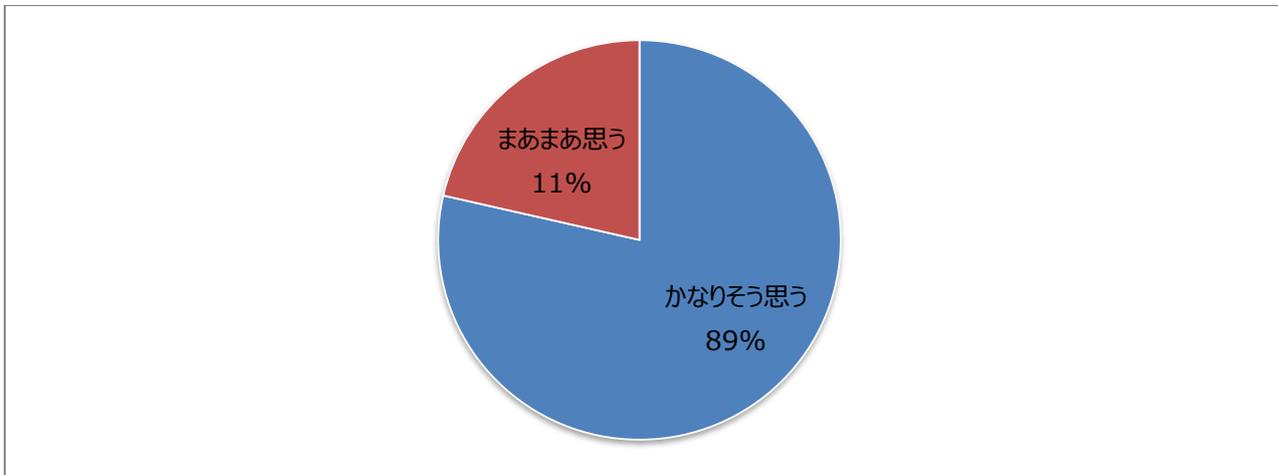


◇参加理由について

- ベッドサイドや車いすでの食事姿勢、頭部ポジショニングのやり方やコツを知るため。
- 初めての参加で興味があり、学びを自分自身の病院で活かそうだから。
- 自分の専門以外の視点を身につけ、口から食べる介助方法を学ぶため、KTBC を活かす。
- 多職種、家族と共有するため。
- 以前、老健や病院で勤務し、VE などを Dr と行い関わってきた。そんな時、「口から食べる幸せ」という言葉がとても自分をひきつけた為。
- NHK のプロフェッショナルを見て、小山先生の活躍に感動しました。直接指導を受けたくて参加を希望しました。
- 当院でも KTBC を使って患者さまにかかわり、TPN が入っていた患者様が、経口摂取が徐々に可能になり、TPN が取れ現在普通に食事をしている姿を見て、自分も積極的に関わられたらと思いました。
- NST で活動している中で、全身的に評価できるツールを何も使用していなかったため、今後 KTBC を使用していきたいと思い参加した。
- 摂食嚥下の分野に興味があり、院内の認定看護の先輩に勧められたから。
- 自院にて訪問歯科を担当しており、認知症、脳機能障害、神経難病、障害児の摂食嚥下障害を診させていただく機会が多く正しい知識を身につけるため。
- 食事のことを看護師さんなど多職種の方にどう伝えたらいいのか勉強したかった。共通言語がほしかった。
- 「誤嚥性肺炎」で入院すると、安易に絶飲食指示が出て、結果、入院前は経口摂取可能だった方が、退院時経口摂取不可となることが多いため。
- 食事介助している患者が多く、手技、やポジショニングの方法を一から学びたいと思った。
- 臨床で人工栄養から経口へ向けての対象患者様も多くいらっしゃるの、実践できればと思い参加した。
- KTBC を当院の摂食機能療法チームで共有しているが、摂食機能に関わる者だけではなく、職員全体で活用する為の知識の習得。
- 病棟の口腔ケアを行いながら、患者さんから食べられるようになりたいと聞くことが多く、包括的な知識を実践に繋げたいと思ったから。
- 昨年摂食嚥下に力を入れ始めたが、知識があまりない中、介助支援していくのは怖いと思ったので。
- 患者様の経口摂取を支えるにあたり、知識、技術不足のため、何をどの段階で行っていくのか、安全な食事介助を理解出来ておらず、患者様の機能に合った最良の支援を行えていくようになりたいと思ったため。
- 日常ケアを行っていく中で、食事介助は、命に関わってくることであり、食事介助をする人で食べることもできれば、食べさせられないこともでてくると思っていました。その役目を担っていると思うので、安全に少しでも食事をとっていただきたい為に学びたいと思った。
- 普段脳卒中患者が多い病棟で働いていて、NS は食べられそうと思っても Dr からは無理と言われたりする場面があった。その時、NS として自分が何もできないことに悔しい思いをしたことがあった。知識もだが、演習を取り入れたセミナーに参加したいと考えたため。
- 評価や食事介助場面で、自分がしている手技での改善点を明確にし、多職種のスタッフと今回身につけた技術を共有したいと思い参加しました。
- 病棟内において、何らかの絶飲食になられた患者さまがたくさんいらっしゃいます。そのまま置き去りにされているような気がしてなりません。自分が少しでも安全委食べられる知識と技術があれば、何も成すすべがない。患者様に一口でも食事を再開できるチャンスを先生にも伝えたい。そのために勉強したい。

- 目の前の口から食べるための支援を必要としているかたに、適切な支援を行うスキルを習得すること。学んだことが自己流になっていないか確認するためにも参加させていただきます。

### Q3.スキルアップにつながったと思いますか？その理由は？

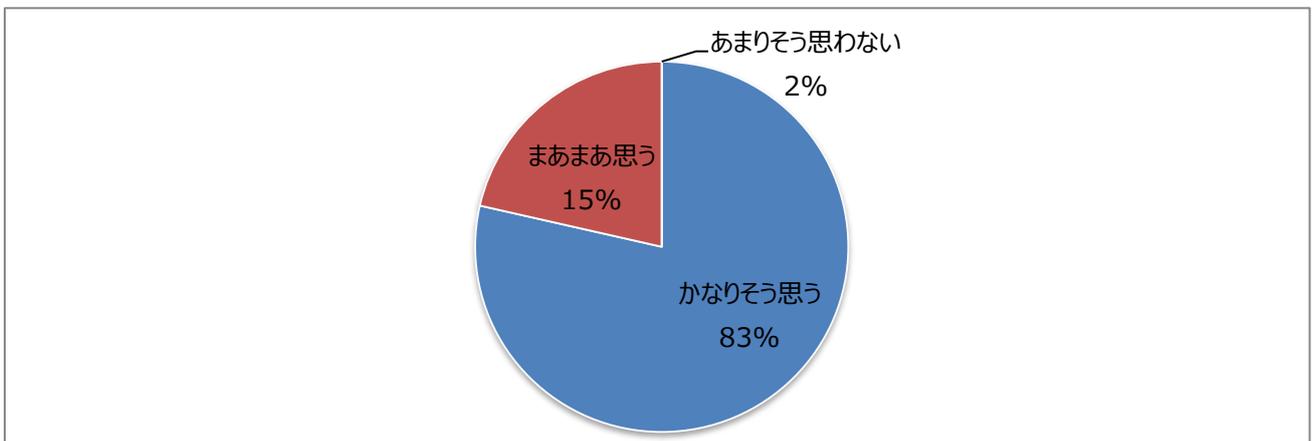


#### ◇理由について

- 演習で具体的なポジショニング、介助方法、声掛けなどを学ぶことができた。ギャッジアップの角度や食器の距離なども数値化しており分かりやすかった。
- 患者側になり、自分が介助される側になることで、心地よいのか否かわかった。
- 基本的なポジショニング、患者さんの目線に合わせるといった自分自身が自然にやっている食事姿勢を行い、安全安楽を図る。
- 評価をする際に、環境調整にも気をくばりたいと思いました。
- 今まで間違った食事介助方法であった。
- 食事の理論上の方法と実際の安楽な体勢が学べた。
- まず、ポイントを押さえることができた。今後、1 つのことに気を取られるのではなく、全体的に注意を払い、安全に食べていただくことに繋げたい。
- 介護士が介入する前段階の話だったので、少し難しく感じましたが、今後は、そういった場面があれば参加申し出たいと思いました。食事前、食事中の姿勢・五感を感じてもらうにあたり前の事を忘れないようにしようと思う。
- 今まで気を付けながら姿勢を整えていたが、患者役になることで、十分できていなかったと感じた。ただ起こして介助するのではなく、リラックスした姿勢かなど考えながら行動したい。
- 知らないことばかりで、とても勉強になりました。食事介助についても不十分な部分があったので、そこから実践していきたいと思います。
- 急性期で働いているので、すぐに絶食と胃管挿入となってしまうのですが、安静制限のある患者の食事介助も行う場面があるので実践していきます。
- 評価や介助の際に注意するべきところや考えるポイントがたくさんあり、とても勉強になりました。ポジショニングの大切さを改めて感じ、明日の診療から心がけたいと思いました。
- 普段あまり気に留めずに行っていた動作も、意識づけることで食べやすさに大きな差がでることがわかりました。
- OTとして食事場面に介入しているが、介助方法など今回知ることが初めてできました。明日から実践します。
- ポジショニングによって食べやすくなったりするため、今後も細かい所まで気を配ってやっていきたい。

- 普段意識を向けられないような所まで意識しなければいけない事に気が付かせてもらった。
- 多職種でグループトークンすることで、その事例に対し様々な意見が出てきた。
- 円背の人への対応や車いすでの食事摂取など改めて学べ、明日から行いたいと思う。
- 頸部聴診やポジショニングなど普段あまり行わないので、積極的にやっていきたい。
- 実践してみて、自分に足りていないところが明確になり、今後実践し、他スタッフに還元しようと思います。
- ポジショニングからスプーンの入れ方、角度、量など、一つ一つの技術をもう一度確認して、患者さまの食事介助支援を行ってきたい。
- 今まで行ってきたことが、いけないことばかりでした。忙しいからと言わず、取り組んでいきたいと思います。
- 基本を守り、全体像から評価することで、必要な目標やプランを見つけることができた。
- ほとんど食事介助はしたことなかったし、する機会も少なかったけれど、今日の技術で少しでも患者さまに関わっていきけるようになりたいと思いました。

**Q4. 今後の実践場面で活用できますか。どんな場面で活用出来ますか。または、活用できない理由について。**

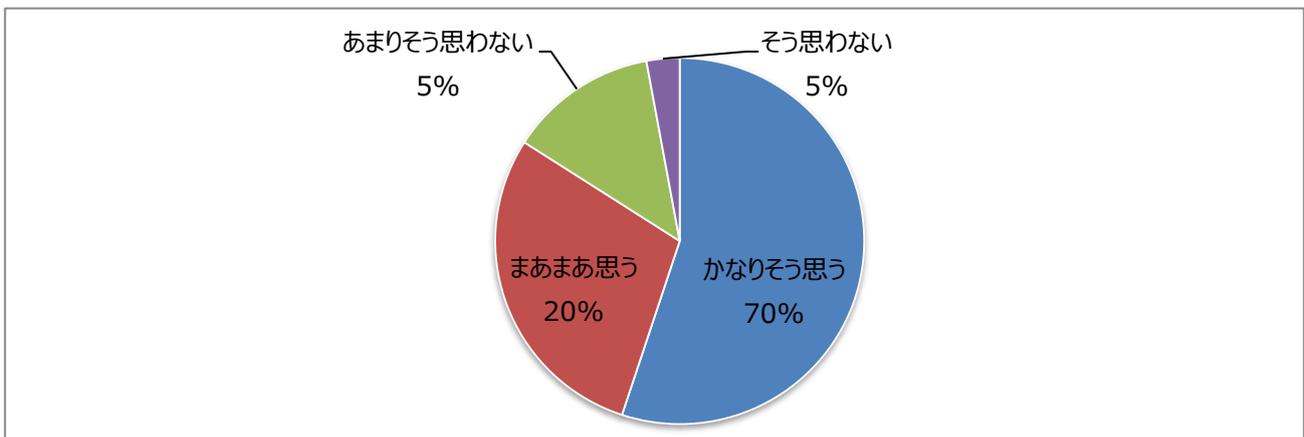


◇ (理由について)

- 体幹の崩れがある方、円背の方の介助、体調不良者はベッド上で介助を行う場合もあるので、活用します。
- 自宅訪問して、患者さんにポジショニングやシーティングをしたいと思います。
- 摂食介助、退院に向けての目標のとりかた、支援、介助、看護、全ての観察の現場で活かせると思う。
- 円背の方へのシーティング、評価時の姿勢、足底接地のやり方、テーブル、視線、食事の位置、調整の仕方。
- 高齢の方の往診、診療と実践で活かせると思います。
- すぐに病棟患者に活用できそう。ポジショニングを考えてみようと思う。
- ミールラウンドのチェックだけではなく、その改善方法を提案できそう。
- 現在食事されている方の姿勢改善。おいしく頂いていただくためにはどのようにしたらよいか考えていきたい。
- ベッド上で自力摂取はできているが、体勢がすぐに崩れてしまう患者さまがいますが、ポジショニングのポイントに注意し、セッティングしたいと思います。
- 患者役になりポジショニングしてもらい、姿勢が少しでも崩れただけで嚥下や体の緊張しているところがわかった。それを頭におき、今後正しい姿勢での介助を行い、他のスタッフにも伝わる様に説明実施していきたい。
- 日常業務で食事介助を行う際、自分自身も正しい食事介助が行え、他のスタッフにも正しい指導ができる。
- 他の職種と共通言語があることで、正しい知識が他の職種に伝えやすくなります。

- 新人教育のプログラムで、多職種への教育として活用できる。日々の臨床でも活用できる。
- 普段から PT の立場で食事の姿勢調整を行っていましたが、離床と食事介入と分けて考えられることが不十分で、本当の意味でポジショニングできていませんでした。すぐにかえていきたい。
- 圧抜きやタオルのしわなどでも嚥下のしやすさが変わってくるということが分かり、今後、評価、介入の際は注意したいと思いました。また、そういったところまで病棟や家族へ伝えていく必要があると勉強になりました。
- 食事という項目について、チームアプローチをする際に活用したいということと、姿勢など、改めて見直して患者様にアプローチしていきたいです。
- クリニック勤務のため、直接患者に役立つことは難しいと思いますが、在宅で介護されているご家族へのアドバイスなどに役立っていききたいと思います。そして、もっと実践したくなったら時は、活躍の場を求めてステップアップを考えたいと思います。
- 食事介助方法で元々のくせがついており、指導を受け気づきました。今回参加し、患者側の気持ちも少しわかり、食べ物の位置や声掛けが大切だとわかりました。
- 先生の言われたように、「行動」することで活用できると思います。
- 食事がとれていない患者様の再評価をして食べる支援をする。
- 自力摂取可能な利用者でも、適切にポジショニングをすることの大切さを学びました。安楽な姿勢保持のため介助していきたい。
- ベッド上、車いす共に食事介助を行っているので、ポジショニングを行いたいと思う。また、KTBC を使用し、まずは担当の人からやっていきたいと思います。
- ミールラウンドを行う際に、ポジショニングについて具体的な提案ができるようになりたいです。
- 評価をし、家族と共に評価するツールにしたい。
- 目の前の患者さんに実践するだけでなく、他のスタッフに伝達するにしても、ポイントをしばって伝えることができるので助かります。
- ベッド上、車いすでのポジショニングを実践し、どのようにしたほうがいいのか理解することができた。
- KT スプーンの正しい使いかたを知り、より良い食事介助ができると思う。
- ベッドで食事をする際の食事介助方法がうまくいかず、食事中に滑り落ちたり、傾いたり、途中で姿勢調整する為に食事を中断していた。安定したポジショニングを学べたので実践したい。

**Q5.本日の実技セミナーのような研修を自分の病院・施設等で自ら企画して行おうと思いますか。その理由について。**



◇ (理由について)

- 今日学んだことを伝えることで復習になり、初めて聞く人にとっては離床場面での引き出しが増えると思う。
- スタッフ全体で共有し、食事介助、ポジショニングのスキルを底上げしたい。
- PTの方にシーティングを任せてしまっていたので、多職種で継続して行えるように情報共有を行う。
- 勉強したことを、スタッフや受け持ちのグループホームなどに伝えていきたい。
- NSだけではなく看護助手や家族なども行うため、自分ひとりだけの知識だけではなく伝達し広めていきたいと思う。
- 自分の知識と実践レベルがあれば、企画開催できれば、ご家族の自宅での介護に役立つと思います。
- 特養、老健、グループホームで、地域ケア会議や認知症カフェで勉強会をしていきたいと思います。
- まずは食事場面の様子を見に行くことで、スタッフの現状、患者さんへの影響をしっかりと把握したい。症例検討などから、院内スタッフへ知ってもらうことで重要性を認知してもらう。
- 勉強になることばかりでした。ですが、KTBCを使用していくとなると多職種連携や協働が必要となることが分かりました。たくさんの人にしてもらい、情報共有をしていくためにも研修会などできたら良いと思いました。
- 看護部研修会での時間枠をもらったので、KTBCの使用法、アセスメント、計画立案を、プライマリーNSが行えるように説明したい。
- もっと広く知ってもらえるように、他職種連携を図れるように、一緒に勉強しようと思う。
- 食事介助技術の実技セミナーを引き続き実践したいと思います。
- 口から食べる大切さを少しずつ伝えていきたい。
- 自分のいる施設に来てほしいと思った。
- 昨年より、口から食べる研修会を立ち上げたので報告をしたいと思う。

**Q6.今後の実践セミナーで取り上げてもらいたい内容について**

- 食事サポーター制度
- 看取りとしての食事ケア
- 布団を使った円背時の姿勢調整は、包括的スキルにいれてほしい。
- 認知症や片麻痺のある方など、具体的な症例で、実践型の研修をしてほしい。
- 挿管の患者にできる嚥下訓練。口腔ケア。
- 実技ではないですが、介入がうまくいかなかった症例、うまくいった症例についても知りたい。
- 実技で行うほうがわかりやすいため、実技の時間を長めにとってもらえれば。
- 認知症患者などの食事介助に指示が通らないことが多く、開口しないなどがある。どのようなアプローチ方法が有効であるか、実例を通して知りたい。
- 基本を何度も学びたい。
- 自力摂取ができる人。車いすでの食事環境について。
- 病状に応じた食事介助をもっと詳しく知りたかった。
- 歯科関係者が病院訪問した時の対応。